

令和 8 年度 第 1 回富士宮市総合戦略有識者会議 議事録

日 時：令和 8 年 7 月 1 4 日（火）午前 10 時 00 分～正午

場 所：市役所 7 階 特大会議室

出席者：

- （委 員）：佐野禎威、赤池英明、岩崎勲、田中正男、飯室憲一、伊藤洋子、佐藤真知子、
加納永子、定松文、田中心也
- （市）：企画部長、企画戦略課長、企画戦略課課長補佐、企画調整係長、商工振興課
長、食のまち推進室長、花と緑と水の課長、契約管理課長、広報課長、ほか関係
課担当職員

次 第：

1 開会

2 挨拶

3 委員及び事務局紹介

4 議事

- (1) 富士宮市デジタル田園都市構想総合戦略の推進状況について
- (2) 令和 7 年度新しい地方経済・生活環境創生交付金事業に係る事業評価及び企業版ふるさと納税について
- (3) 令和 8 年度地域未来交付金事業及び企業版ふるさと納税について

※配付資料

【資料 1】

富士宮市デジタル田園都市構想総合戦略進捗状況（令和 7 年度）

【資料 2】

令和 7 年度新しい地方経済・生活環境創生交付金及び企業版ふるさと納税

【資料 3】

令和 8 年度地域未来交付金及び企業版ふるさと納税事業

5 閉会

議事（１）富士宮市デジタル田園都市構想総合戦略の進捗状況について

【田中心也 委員】

- ・基本目標２（５）まちの魅力を創造・発信におけるKPI「関係人口（SNSでつながる市外の登録者数）」について、LINE登録者数は増えているものの、居住地のデータが把握できていないということで、事業というよりもシステム上の課題と思っている。今後、居住地を把握するための施策などは考えているか。

〈広報課長〉

- ・市のLINEは、居住地の設定をしなくても利用ができてしまうため、居住地設定をしてもらうためのキャンペーンを実施したりしているが、正確な把握には至っていない状況。今後はInstagramやXなど他のSNSも活用して市内外の人に情報を発信していきたい。

〈企画戦略課長〉

- ・今回の指標では、関係人口数を設定しているが、「関わり」といったところで、例えば地域のお祭りに参加するなど、地域のいろいろな活動に市外の人に関わってくれている。令和8年度の取組として、その関係人口が実際どんな関わり方をしているかなど、実態を把握して今後の事業に生かしていくための調査を実施している。

【田中心也 委員】

- ・LINEについては、非常に良い取組だと思っている。LINEはお金をかけずに、自動返信機能を初めに設定することができる。新規登録をした方に、お住いの地域、興味があることくらいを質問しておけば、今持っているツールだけで、居住地を把握することができ、今後の活動に生かせると思う。あとは、関係人口には階層があると思う。まずは、SNSなどで情報を見て、興味を持ったフェーズ、それから実際に地域イベントに参加した方や、地域事業者と関わったなど、区分けしていくとフェーズが見えてきて、フェーズごとに違うアクションをすれば、効果的かと思う。せっかく情報を取るにあたっては、公式LINEというすごくいいものがあり、もっと活用すれば宝になるようなデータの入口部分のため、もう少し活用できる方法を考えるといいのではないかと思った。

【定松 文 委員】

- ・P18の「生活の中で英語を使っている」という小学生の割合が非常に高い数値が出ている。私自身、生活の中で英語を使う機会がほとんどないが、ちょっと高すぎるのではないかと思う。これはどうやって計測しているのか。

〈企画戦略課長〉

- ・こちらは教育委員会の所管になるが、学校でアンケート調査を実施して数値を出している。

【定松 文 委員】

- ・教育関係部門では、ここに高い数値を出したいと思うが、本当のことが分からなくなったり、どう改善していくのかわからなくなるため、あまりここに高い数値を求めない方がいいのではないかと私は思ってしまう。

【赤池 英明 委員】

- ・P10の宿泊者数の備考欄、「宿泊施設の不足等」の「等」にはどういうものがあるか。

〈企画部長〉

- ・「等」には、宿泊施設の不足もあるが、それ以外も、よく言われているが、宿泊施設があっても富士宮へ滞在する理由や用事がないと、宿泊者数も増えていかないという意味での

「等」である。宿泊施設があれば、宿泊者数が増えるというものでもないと考えている。

【飯室憲一 委員】

- ・ P6 の宮バスについて、人数が減っているのは仕方ないと思うが、コースの見直しの検討や、本当に必要としている人がどこにいるかなどの把握はしていないのではと思う。いろいろ改革が必要と思う。すべて少子高齢化が原因であると思うが、改革していかないともっと加速してしまうと思う。空き家や耕作放棄地の問題も同様。具体的な対策を検討して改善して欲しい。特にこの宮バスについては、もっと改善して欲しい、私ももっと利用したいと思う。

〈企画部長〉

- ・ おっしゃる通り地域の公共交通の問題は、少子化や地域の活性化など色んなところに影響するもので、新しい総合計画にも、重点取組に位置付けているため、幅広い検討を進めていきたいと考えているところである。なかなか妙案が浮かばない状況であるが、重要な施策として庁内でも検討を進めていく。

【飯室憲一 委員】

- ・ 他の交通機関に切り替えたというのは、自家用車に切り替えたということでもいいか。

〈企画部長〉 はい、そのとおり。

【加納永子 委員】

- ・ P2 の非常用食料の備蓄数について、食糧備蓄目標数を 7 日分から 4 日分に変更した根拠は何か。

〈企画調整係長〉 県の指針などには、一般の家庭では 7 日分の食糧の備蓄ということが書かれている。今回の指標については、避難所などの備蓄数を設定しており、近隣市町を見ても同様に 4 日分となっているが、4 日ほど経てばおおむね救援物資が届くであろうと考えられているため、そのような判断のもと見直しを行った。

【佐野禎威 委員】

- ・ P2 の木造住宅の耐震補強工事について、100%近い達成率であるが、産業界でもここ 7-8 年くらい「TOKAI0 プラス」ということで、県行政に要望を出しているところである。これだけ耐震が意識付けされているなか、達成率が 100%近いということで、このまま継続していけたらということで、今後も要望していきたい。

P9 のごみのリサイクル率について、資源ごみの回収ということで、令和 6 年からプラごみの分別ということで回収されている。商業部会からもこのような意見が出ており、回収した資源を有効に使うことによってゼロカーボンを達成したいということのため、この KPI のリサイクル率を回収率に改めたらいかかと思った。P16 の出生率が減っていると言うが、今の事情で子ども自体が少ないため、なかなか無理がある指標ではないか。現状に合わせて修正してもよいのではないか。

〈企画部長〉 すべてのご意見を参考とさせていただく。

議事（２）令和７年度新しい地方経済・生活環境交付金関連事業に係る事業評価及び企業版ふるさと納税について

【佐野禎威 委員】

- ・商工会議所としては、事業承継に関わっており、非常に難しい相談もあった。月２回ほど定期的に行っている。専門機関に相談するとかなりの費用がかかると思うが、市でこのような事業を実施しているということは非常に有効だと思う。

【赤池英明 委員】

- ・P12の電子契約システム導入事業について、利用件数の割合が59.7%、そのうち81%が満足しているという回答だが、逆に言えば２割の人が満足していないということとなるがいかか。

〈契約管理課長〉

- ・入札には、工事、工事に係る委託業務、物品と３種類あるが、令和７年１０月から３月までの件数の59.7%が利用件数の割合となっている。種別ごとの利用割合は、工事 70%、委託が90.9%、物品が21.7%となっている。基本的にこの電子契約システムの利点は、市役所に足を運ばなくていいこと、収入印紙が不要ということで、工事や委託業者だとそういう面から満足度が高いと思う。物品については、もともと契約書に収入印紙が不要であることや、納品などで市役所に足を運ぶことも多いため、あまりメリットを感じずこのような満足度になっていると考えている。

【赤池英明 委員】

- ・現在はインターネットやスマートフォンもかなり普及している。業者次第というところもあると思うが、今後、物品についても満足度を上げていくために、どのようにしていくか。

〈契約管理課長〉

- ・今、入札以外でも見積もり合わせの方法で「オープンカウンター」というものも導入している。窓口に見えることが多い営業の方などに電子契約システムの紹介をするなどしている。確かに業者次第というところもあるが、今後も電子契約システム使用に関する声掛けを継続していきたい。

【岩崎勲 委員】

- ・眠れる労働力を発掘！富士宮プロジェクトの中で、富士宮マッチボックスの説明があった。スポットワークということだが、正規雇用につながるということが一番いい結果だと思う。富士宮信用金庫も事業者登録をしたため、今後も連携、協力していきたいと思う。また、スイーツのまちづくりについて、地域資源を活用した商品開発や、他県へのイベントへの参加、また市内でもイベントを開催しており、非常に力強さを感じているため、継続して行ってほしい。

【田中正男 委員】

- ・P6の実績について、オープンカンパニー等参加企業数が減ってしまった要因について分析しているか。また、オープンカンパニーによって、実際に雇用につながったなどの効果について把握しているか。あと、プリンまつりに関して、来場者も多く活気あふれていたが、今年は駐車場が少なかったことと、販売方法についても少し規制をしたほうがいいと感じた。やはり富士宮やきそばに次ぐイベントとして繋げて行ってほしい。

〈商工振興課長〉

・オープンカンパニーについて、前年と比べて3社減ってしまったが、原因については市では分かり兼ねる。色々声をかけてきたが、結果がこのようになってしまった。今回、オープンカンパニーを実施するにあたり、企業の社会価値向上による採用力強化、働ける環境のススメという形で、2回に渡って16社、トータル43名の従業員に来ていただいた。そこでは、他社との意見交換なども実施し、客観的な自社の見直しに繋がったとか、採用に向けて何か具体的に始めてみた、という話も聞いている。今後も継続していきたい。また、オープンカンパニーの後に、参加した16社のうちの3～4社に声をかけて、学生とのマッチングする機会を設けた。地域課題の解決に興味を持つ学生を募集して、課題解決のためのワークショップを半年かけて行った。最終的には成果発表会をやっている。参加学生は大学1,2年生が多いため、今後、雇用にもつながっていくかと思う。

〈食のまち推進室長〉

・プリンまつりの反省会でも、駐車場の課題は挙げられた。去年は、当日に宮町まつりなどのイベントが重なっていたということ、また城山公園が工事の関係で使えなかったため不足してしまった。中には駐車場が理由で来場をあきらめた人が多くいたという意見もいただいている。今年度も2月20日を予定している。他のイベントと重ならないよう日程をずらすなど工夫したい。また、販売方法についても、店によっては値引きをして売っていたなど、他店から意見などいただき課題が残ったため、それらの反省を生かしながら今年度も実施していきたいと思っている。

〈企画戦略課長〉

・駐車場の確保は重要な課題である。城山公園については、現在改修中で天然芝として整備しているため、公園管理の観点から、今後は駐車場としての開放はしないという方針である。しかし駐車場の必要性は感じているため、多くのお客様にご来場いただけるように他に広くスペースを確保できる場所を模索するなど駐車場の確保を検討していきたい。

【飯室憲一 委員】

・ワークライフバランスの関係で、オープンカンパニー参加企業が減ってしまったということだが、大学生が就職するとき、大手の企業ばかりではなく、中小企業への就職につながるような施策を実施してほしい。やはり高校生や大学生は、ネームバリューのある企業を選びがち。市内には、下支えしている中小企業がたくさんあるため、本当の良さを発信できるよう、未来につながるよう中高生を対象に活動していただけたらと思う。スイーツの関係も、大盛況だったと伺っている。先ほどの駐車場の問題については、シャトルバスなども検討してほしい。

【伊藤洋子 委員】

・人材マッチングサイトについて、就業マッチング数が1,209件ということで、これが多いか少ないかは、令和8年度の実績を見ないと分からないと感じている。実際利用している方の年代や性別などの情報が分からないが、そのようなところを分析して戦略を練る必要がある。私も人材派遣の業界だが、同様の民間サイトを利用している事業所から、色んな声を聞いており、裁判になっている事例もあるため、そういう不安も少し感じている。そういったところをクリアして、貴重な眠っている労働力をもっと活用していけるものにしていただければいいと感じた。スイーツのまちづくりについても、今回牛乳と卵に焦点を絞り、やきそばに代わるブランドになればいいと思うが、富士宮にはほかにもいい食材がたくさんある。プリンにこだわらず、例えば米と水などでもいいかと思うため、幅を広げていくこともいい。駐車場が不足していれば、

朝霧地域などもっと人が増えても受け入れられるし、ロケーションもよく、さらに人が集まるイベントになるのではと思う。

あと、担当課による自己評価について、皆さん遠慮がちで◎が少ないと感じる。ここが◎と思えるような取り組みを増やして行ってほしい。

【佐藤真知子 委員】

・シビックプライド醸成事業について、PTA 活動に参加しているが、その中で子どもたちにとってもいい影響が出ているという声を聞いている。引き続き、地域のことを学ぶ総合学習は、体験を中心に進めてほしいと思う。電子契約の取組も素晴らしいと思う。そのうえで気になる点を伝える。色々な講座だったり、地域を盛り上げようという攻めの姿勢は大変素晴らしいと感じている。ただ、住民として、またビジネスの観点から強く懸念しているのは、守りの姿勢。AI 技術が進んで、表面的な知識だけで提案してくる業者が急増しているのも事実。弊社は、IT 業界創業 25 年で、このあたりが気になっている。だからこそ、民間任せにするのではなく、提案の要旨やリスクを自ら正しく見極めて判断できる専門人材を登用したり、アドバイザーをつけたり、民間連携を進めるからこそ、市自身が守りのコントロールタワーのような目利き力を持っていただきたい。そのあたりの体制づくりなどで進めていることがあれば教えてほしい。

〈企画部長〉

・具体的になにかあるわけではないが、実際に AI 技術が急速に進んでおり、特にシステム系の分野で民間の事業者にもお願いすることがあるが、任せきりではいけないという認識は持っている。そのようなルール作り、ガイドラインも含めて現在計画を策定しているため、その中で検討していきたい。

【加納永子 委員】

・子育ての関係で広報ふじのみやに子育ての特集が載っていることは大変ありがたく思っている。P8 スイーツのところで、富士宮市は卵と牛乳の生産量が多いということをプリンまつりで初めて知った。市民の皆さんもそんな認識を持ったイベントだと思っている。新聞の情報のみだが、県外からも多くの人が訪れ、プリンがすぐに売り切れてしまい店に戻って商品を追加し、それでも売り切れ続出ということで驚いた。プリンをぜひ富士宮の特産の作品にしてほしいと思う。このイベントは、市の職員と企業で一緒に考えて生まれたものだということも素晴らしいことだと思う。どこへ行っても富士宮といえばやきそばと言われたように、スイーツもそのようになると嬉しく思う。

【定松文 委員】

・プリンまつりがこんなに盛況だったことを知らなかったため、よかったと思う。ただそれを今後はどうつなげていくかがということを考えると不安になる部分もある。昨年度の報告の時には、観光分野であまり数値が伸びないと報告があった。二日間のイベントであって、そのあとの継続性が少ないということが課題であると考えている。これをいかに一過性のイベントではなく、継続させる方法の検討が必要なのではないか。プリンだけではやはり弱いのではないかとと思う。スイーツは、短時間で食べきってしまうため、南阿蘇を例に挙げてみると、ブリュワリーがあり、色々な食材を使ったお店があり、エリアのなかで様々なお店が頑張っており、長く滞在し、宿泊する流れができています。起爆剤として、プリンに特化するのはいいいが、広げていくということも重要。滞在型にしていくという視点も持ってほしい。例えば中高生の研修など、最近では燃油サーチャージの高騰や円安の影響で海外研修が難しくなっている。そこで、工場見

学や、企業見学などで売っていくこともいいのではないかな。そのような接点を持った人がその後、もう一度自分のお金で行ってみたいと思ってくれるように広がっていけば嬉しく思う。

【田中心 委員】

・P4 の人材マッチングサイトについて、マッチング数が 1,209 件とあるが、延べ人数であると思うが、実際の稼働人数を知りたい。あとはリピート率、長期雇用に発展したケースはあるかを知りたい。初年度に関しては、女性、介護離職者、高齢者にフォーカスされているが、今後福祉分野のほうにシフトしていきたいとか登録を増やしたいなど偏りが見えてしまうのではないかと懸念している。

P12 の電子契約システムについて、予算に対しての決算額がおおよそ 20%となっている。その理由は何か。

〈企画戦略課長〉

・マッチボックスの関係でわかる範囲でお答えする。まず登録した人は、1,310 人いるが、実際に働いた人は、約 200 人となっている。その中には、何回か働いた人がいるが、リピート率は分からない。長期雇用の関係については、まだ初年度ということもあるが、ゼロである。今後の方向性については、農業分野や高校生の就業体験の機会などに広げていきたいと考えている。

〈契約管理課長〉

・初期設定支援やシステム導入費用など見込んでいたが、実際導入にあたって、職員で対応できる部分があったり企業努力により導入費用も抑えられたことなどから使用料のみ支出した。余剰分については、令和 7 年 9 月議会で減額補正をしている。

※議事（２）について、各事業の評価を採決

⇒すべての事業について、『A:総合戦略の推進に有効だった』と評価をいただいた

議事（３） 令和 8 年度地域未来交付金関連事業及び企業版ふるさと納税について

※質疑・意見等なし

5 閉会